

第1回 丹波市生涯学習基本計画審議会（摘録）

開催日時	令和元年5月21日（火）午後7時開会～午後9時30分閉会
開催場所	氷上住民センター
出席者	【委員】 岡田龍樹委員長、萬浪佳隆副委員長、荒木伸雄委員、山内佳子委員、大西誠委員、酒井芳朗委員、角悟委員、廣瀬渡委員、酒井礼子委員、松本佳則委員、松井宣子委員、細見典子委員 【丹波市】 副市長 【丹波市教育委員会】 教育部長、教育総務課長 【事務局】 まちづくり部長、市民活動課
欠席者	【委員】 足立雅人委員
傍聴者	なし
次 第	1. 開会 2. 委嘱書の交付 3. 副市長挨拶 4. 委員紹介 5. 委員長及び副委員長の選出について（設置条例第5条） 6. 委員長・副委員長挨拶 7. 諮問 8. 協議事項 （1）運営要綱、傍聴要領の決定について （2）会議公開、非公開の決定について （3）丹波市生涯学習基本計画（後期計画）の策定について 9. 委員研修（講義） 10. 協議 （1）丹波市生涯学習基本計画（後期計画）の策定について （2）丹波市生涯学習に関するアンケート調査について 11. 第2回審議会の開催日程 12. 閉会
資 料	【資料①－1】 丹波市生涯学習基本計画審議会委員名簿 【資料①－2】 丹波市職員等名簿 【資料②】 丹波市生涯学習基本計画審議会設置条例 【資料③】 丹波市生涯学習基本計画後期計画について（諮問）（写） 【資料④】 丹波市生涯学習基本計画審議会に関する運営要綱（案） 【資料⑤】 丹波市生涯学習基本計画審議会に関する傍聴要領（案） 【資料⑥】 丹波市生涯学習基本計画（後期計画）策定の方向性について

	【資料⑦－１】丹波市生涯学習に関するアンケート調査について 【資料⑦－２】丹波市生涯学習に関するアンケート調査（案） ◆参考資料 ① 丹波市生涯学習基本計画 ② 丹波市生涯学習基本計画（概要版） ③ 社会教育法の改正及び地域学校協働活動の推進に向けたガイドラインについて（文部科学省） ④ 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（概要版）（文部科学省） ⑤ 第３期ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育振興計画） ⑥ 今後５年の教育のめざす方向性（市教育振興基本計画第３回審議会料）
会議摘録	
発言者	発言の要旨
事務局	１．開 会 ○開会あいさつ
委員長	２．委嘱書の交付 ○副市長より代表委員へ委嘱書交付
副市長	３．副市長挨拶 皆さんこんばんは。本日は生涯学習基本計画審議会の委員をお願いしましたところ快く引き受けを頂きありがとうございます。また大変遅い時間からのご出席ということでこちらの方も改めまして御礼を申し上げます。只今、岡田先生に代表して委嘱書を交付させていただきましたけれど、これから１年間どうぞよろしくお願い申し上げます。 さて、今自治体で、国全体で一番大きな課題というのは人口減少の問題です。いろんな分野での人口減少が大きく影響しているというところです。 これに関しては皆さんよくご存知のように２０１４年ですか５年程前に消滅可能性都市という言葉がでてきたわけでございます。 元総務省大臣の増田寛也さんがつくられた民間団体「日本創生会議」というところの提言ですが、２０１０年から２０４０年の３０年間に２０代から３０代の女性が半分以上になる。こういったところで、人口の再生産能力が非常に落ちるといったところで 将来消滅してしまう可能性があるというショッキングな提案で、全国の自治体の半分以上が該当する。丹波市もこの消滅可能性都市に入っているということで、それ以降、国を挙げて全国の自治体が人口減少対策に取り組んできたわけであります。 今回 生涯学習基本計画の前期計画が２７年４月からですから、人口減少の問題というのはすでに出ていたわけですが、その時、まだ、丹波市人口ビジョンであるとか、丹波市創生総合戦略というのはできてなく丹波市とし

でも本格的に人口減少対策というものに方針を持っていない中での生涯学習審議会で計画を策定していただく状況でした。丹波市の人口減少はどうなっているかといえば、このところ大体 600 人ぐらい毎年減少しているわけで、このまま何もしないで行くとどうなるかといえば、2010 年には6万7千人その 50 年先の 2060 年には3万5千人ぐらい。大体人口が半分位になるということ、それを人口減少対策に取り組んで5万人にしようというのが目標です。とは言いながら実際は人口が着実に減少しているというのが現状です。一方、最近のデーターでは、2015 年から 2035 年、20 年後ですけど団塊の世代が 85 歳に、よく 2025 年問題で団塊の世代が 75 歳後期高齢者になることが課題といわれていますが、実際には多分 75 歳はまだまだ元気な高齢者で、問題になってくるのは 2035 年団塊の世代の皆さん方が後期高齢よりもさらに 10 年後の 85 歳になるころが一番問題なのかなと、その段階では丹波市では人口は2割ぐらい減るが一方では85歳以上の人口は4割以上といういびつな構成になるという推理が出てくると思います。いずれにしてもできるだけ人口減少を抑制していかなければならないが、人口は確実に減ることは確かである。

人口が減っても地域が活力を持ち続けていくということが重要でありまして、そのためには今、個性とか力を発揮できていない人たちが、これから人口減少の中で力を発揮していくことが重要なんだろうと思う。つまり、女性・障害者・高齢者・外国人等々が十分に能力を生かしていない、個性を生かしていない方々が活躍することが人口減少しても社会が活力を持ち続けることだろうと思います。

その意味でその方々が能力、個性を発揮できるためにも周りの方が学んで能力を発揮できるという意味での生涯学習はどうあるべきかが大きな課題であると思っています。

また、生涯学習のテーマそのものも人口減少社会の中で地域が活力を持ち続ける、経済が活力を持ち続ける、あるいはまちの担い手まちづくりの担い手がいなくなる中でどうしていくのかということが生涯学習の大きなテーマになっていくのではないかな。また、それだけではなくて、学ぶ人が少なくなる、教える側 学びを提供する側が少なくなる。そういうような学ぶ機会 学ぶ場も難しくなってくる。その中で学ぶ機会、学ぶ場をいかに確保していくことが人口減少社会の中で重要な課題になってくると思う。

そういう意味で後期計画の中で人口減少社会ということに視点をあてながら考えていくということが重要なのではないかなと思う。前期計画ではそこまできっちりと意識ができていなかったというところなんです。いずれにしても難しい時代になってきますが、皆さん方の忌憚のないご意見を反映させていただいて、これからの丹波市が生き活きと活力を持って多くの人が活躍できるそんな丹波市をつくっていただく為の計画を作っていただければと思います。これからどうぞよろしくお願いします。

事務局	4. 委員自己紹介 ○名簿順に自己紹介
事務局	5. 委員長及び副委員長の選出について 委員長 岡田 龍樹委員 副委員長 萬浪 佳隆委員
委員長	6. 委員長・副委員長挨拶 只今委員長に選出していただきました、岡田龍樹と申しますどうぞよろしくお願いいたします。先ほども申しましたように、この丹波市の前期の生涯学習基本計画策定から丹波市にはお付き合いさせてもらっています。もうあれから4年、5年たったのかと、良いものができたなと思っていますが、時代の流れとともに修正していくべきところもあるかと思しますので、これから皆さんの意見をいただきながら後半部分、丹波市のより良い生涯学習のあり方についていいものに仕上げていきたいと思しますのでご協力よろしくお願いします。
副委員長	改めまして萬浪と申します。よろしくお願いします。副委員長という重責を担うことになりました。非常に荷が重いと思いますが、自分の持てる力で精一杯協力させて頂きたいと思えます。その中で生涯学習社会の中におけるこの基本計画は何を目指しているかと詰めていきますと、自分の住みたい町をどうやって作り上げていくか、そのためにはコミュニティデザインをどうしていくかに尽きるのではないかと思います。そうすることによって持続可能なまちづくりに繋がっていくように思います。 生涯学習社会における各住民、個人の生き方とか、どうやって自分が地域に貢献したら住みよい町になるのか、その意識付けをしていかないといい計画でもなにもならないので、まず住民と共に、学ぶ住民側からは見えた目線、行政からは支援していく教育的な配慮、これは家庭教育も社会教育も学校教育もすべて合わせて生涯学習社会なので合わせて行っていくことが重要だと思います。 新しい言葉として人生 100 年時代という言葉が出ましたが、今「ソサイエティファイブ」といういわゆるバーチャルの世界ですね、仮想空間と現実空間と融合した社会、新しい社会の元年と言われています。これからの5年間先 10 年後を見据えるあたり仮想空間「Society5.0」という捕らえ方も、この計画の中に少し取り込んでいかなければ時代に遅れてしまうのではないかという気がします。皆さんで検討していければと思います。よろしくお願いします。 7. 諮問 副市長から委員長へ諮問書の交付

事務局	8. 協議事項 (1) 運営要綱、傍聴要領の決定について ○資料④、資料⑤に基づき説明、提案通り決定
委員長	(2) 会議公開・非公開の決定について 会議の公開・非公開については、運営要綱第2条において、「会議の公開又は全部若しくは一部の非公開は、委員長が会議に諮って、これを定める」となっている。 本日の議事においては、特段、個人情報が特定されることはないと考えられるので公開とする。
委員長	(3) 丹波市生涯学習基本計画（後期計画）の策定について 事務局に説明を求めます。
事務局	○資料⑥並びに参考資料に基づき説明
委員長	ただいま、事務局から丹波市生涯学習基本計画（後期計画）の策定について説明があった。このあと考え方を共有することを目的に研修の時間をもっていただいているので、私のほうから少し補足をさせていただく。なお、計画についてのご意見やご質問などは、後ほど、「10. 協議」のところで、一括してお願いします。
副委員長	9. 委員研修（講義） 計画の改定にあたり委員長に講義をお願いしますので、私が司会進行することご了承ください。講義のあと、事務局からの説明を含め、講義内容の質疑を受けたいと思います。
委員長	<講義記録 別紙参照>
副委員長	ありがとうございました。委員長は天理大学の副学長でもありますし、生涯学習を専門とされる教授でもあります。講義の中で質問、これまでの説明の中でご意見等ありましたらお願いします。
大西委員	10. 協 議 (1) 丹波市生涯学習基本計画（後期計画）の策定について 生涯学習概論は分かるが、聞けば聞くほど私たちはどういったスタンスで残り3回の審議会を進めていくのか、本来の生涯学習が目指している世界と先ほど資料6で説明していただいた後期計画に於いては、更なる知識循環型生涯学習を推進していくという文言と、地域学校協働活動推進を審議していく話があります。その方向性と人口減少問題を後期計画にどこま

委員長	で反映させていくのかスタンスが見えなくなっている状況なのでそのこと。また、地域学校協働活動につきましては、本日の資料3の4ページに掲載されています。細かい話になりますが、先生ご自身の言葉の中にも本部という記述が示されてないとありますが、上の方には地域学校協働本部と載っています。この中に地域学校協働活動推進委員（コーディネーター）の役割がありますが、学校運営協議会と地域を繋ぐ委嘱を教育委員会は委嘱できるとありますが、地域学校協働活動推進委員は名目では地域学校協働本部の中に所属とあり、実態として地域学校協働本部は、保護者、地域住民、企業、NPOが入っていますが丹波市においてはどの団体が入っているのか、自治協などを含めた既存の団体に依頼していくのか、全く新たな本部を作るのかが見えていない状況です。その中で地域学校協働活動推進委員だけを教育委員会から委嘱されてその方が学校運営協議会と活動する。それが先般丹波市で開催されたコミュニティスクール推進委員フォーラムです。その中でも見えていない状態です。そのことを含めて審議対象にあげていくのか審議会の問題として方向性が見えにくくなっているので示してほしい。 事務局と打ち合わせした時には人口減少という話はなかったが、このような会議に丹波市の高校生を加えてくださいとお願いしました。高校を卒業して丹波から出て行く、帰ってくる人もいるが、若い世代が丹波に根付いていただきたい。丹波市の高校生が自分たちのまちのことを考えていくということは人口の問題と密接に関わっていると思います。「TAMBA 地域づくり大学」で話したときに、丹波の高校生が数人聞いてくれてびっくりしました。そういう意識の子たちがいる。その人たちとも意見を交換しながら大人だけで考えるのではなく、将来、丹波で住み続けて行きたい人たちがどういう生涯学習を進めたいかを考えたい。これはひとつの案です。これもご議論いただきたい。 地域学校協働本部ですが、奈良市の例でいえば地域学校協働本部が先に組織化され、その後からコミュニティスクールを導入。地域学校協働本部や地域学校協働活動をする人たちは、一般に学校ボランティアという人たちがケアをし、取りまとめをする人をコーディネーターといいます。コーディネーターの中から一人地域学校協働推進委員に任命して文部科学省が予算をつけますという話になっています。この方は地域に片足を置きながら運営協議会の委員になり、橋渡しの役割を果たすことになりますという図を文科省は描いています。 奈良市の場合は、地域学校協働事業を支援する人たちの取りまとめをするコーディネーターの方が一人の場合（文科省のモデル）は、学校の職員室に席を設け校長先生と話をしながら、地域のボランティアを組織して学校と協働活動をしていく画を文科省は描いています。ところが奈良市の場合は、一つの小学校区にコーディネーターが5人～10人います。コーディネ
-----	--

	ーターが協同で協議します。奈良市の場合は、学校運営協議会の委員はコーディネーターさん全員です。コミュニティスクールの委員、学校運営協議会の委員と地域学校協働本部を動かしている人が一緒です。スムーズに行きますが、役割としてはどうなのかとなります。地域の人材ということから考えると、こっちでたくさん世話をしてくれる人と、それとは別で学校のことは良く知っていて学校の世話をしてくれるという人材を探すことは困難なので、ある意味学校のことをケアしてくれているコーディネーターさん、学校のことを良く知ってお手伝いしてくれる人が運営委員になってくれると話早い。
大西委員	その部分を暫定的に今後の審議会中で皆さんの意見をいただきながらまとめしていくという方向性があるかを確認したい。
委員長	丹波市の生涯学習基本計画の中で学校のことは、外にあった。奈良県では、高校もコミュニティスクール化を図っています。丹波市でも高校のコミュニティスクールを作ると地域の資源になる訳です。今後想定していく必要があるのではないかと考えています。審議会でもどこまで踏み込んで話し合っていくのかは、教育委員会の事務局もいらしているのでどういう射程で話し合っていくのかが議論になる。
大西委員	先般、県の公民館大会がいなみの学園でありましたが、その中でも学校地域協働の説明はありました。県内の他市町はいわゆる市の公民館活動として進めている。残念ながら丹波市の公民館活動はない。各自治会の公民館活動に流れている。市全体の公民館活動はどこにあるのか。管轄部署は市民活動課と知っている。従来あった地区の公民館活動は、現在無くなっている。行政の進める公民館活動は、皆無といったは語弊があるかもしれないが、私は思いつかない。その形の中で行政に対する要望も含めて審議会の中で審議させてもらってもいいのか。
委員長	これまで行政が運営していく公民館があるべきだという議論がありましたが、一方で自治会が主体的な公民館活動がされているのであれば、ある意味それが主体的な市民活動である。それを行政指導していくよりは、その活動とリンクしていくと考えるほうが良いのかも知れない。
大西委員	市が行う公民館活動が必要だといえ、行政組織についての意見が可能かということ。
委員長	行政機構まで変えようという話になるのかどうかはわからないが、今の多様な地域の中の資源とリンクしていき、行政の中のネットワークを開きながらこれまで繋がってこなかったいろんな人や団体とやっていきましょ

	うというまなびの里づくり協議会と同じ目線で生涯学習と同じと考えられるのでそれは丹波市の強みではないかと思っています。
副委員長	公民館連合会の話ですが、公民館の中で地域学校協働本部事業を取り扱っているのは少ないのではないかと思います。公民館でない生涯学習センターとか生涯学習プラザ、コミュニティセンターといった名称のところでいわゆる公民館活動をされているのも行政です。丹波市も「市民プラザ」で生涯学習社会をどうしていくかというつながり、基本を作って実際の活動を地域に任せるといふ施設になればいいと思っている。その辺りは行政と相談しながらここで会議を進めていけばよいのではないかと思います。
荒木委員	地域学校協働活動ですが、昨年度に一部の教育委員さんとの話をしたことがあります。そこでもやっていかなければならないというのが一致した話ですが、丹波市オリジナルとしてはどんな絵を描いていくか。奈良市の話がありましたが、その絵を描くところはどこなのか？ここはそういったところではなのか、そうでないのかを聞きたい。
副市長	今すぐにここで答えるのは難しい。市全体の話になるので、次回までの宿題とさせてもらい、その間に市長部局と教育委員会との話をさせていただき、この場でどこまで議論していただくか、また公民館の話も含めて次回までの宿題とさせていただきたい。
委員長	（２）丹波市生涯学習に関するアンケート調査について 学校との関わりのところで、次に事務局からアンケートの話がありますが、アンケートの中に学校の協働活動の調査も含めるということだったので、どれくらいの市民が学校に関わっているのかという様なデーターをもとに地域学校協働活動を推進する話に展開していくのではないかと思いますので、アンケートのことを事務局から説明してもらいます。
事務局	○資料⑦－１、⑦－２に基づき説明
委員長	前回の前期の部分の基本計画を作る際にもアンケートを実施していますので、それと比較をするために基本的には同じアンケートをさせていただきます。ただひとつ選択肢を増やして学校と地域協働を加えている。減ってはいないけど選択肢が増えている。その辺りで地域の方々と学校との連携のデーターも上がってくる。そのことを踏まえて委員会で目的や地域学校協働事業活動について検討するのか方向性を出していくのか出来ないかと思っています。
大西委員	同じ質問をする意味はわかるが、先ほどの委員長の講義の中で「生涯学習

	とは個人にのみ還元される学びの目標があったとされ、それから答申によって地域循環型生涯学習に変遷していった」という話がありました。循環型をイメージして前期の計画は作られてまなび人を増やす、まなび力を育てる、まなび里を作るというイメージになってきたが、それでいうと、問 14、問 15、の設問は、勝手な意見かも知れないが「生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を仕事や地域活動…」という尋ね方になっていますが「仕事」というのは個人への還元ではないのかという印象を持ちます。そして「地域活動に生かす」というのがまさに知識循環型になっているのかなと。生涯学習というのは、個人への還元が含まれるという概念的なものは認めながら、この設問は、前期計画の後の設問としては「仕事や…」を抜いた方が前期基本方針の中での施策が生きてきた設問にならないかと思います。 「仕事」まで含めてしまうと個人の還元というところで、計画自体が評価に繋がらないアンケートになってしまうのではないかと疑問をいただきました。感想です。
委員長	回答する人がどのように捉えるかで違ってきますが、先ほど話しました様に学びから農業をみんなで協働してやっていく仕事でも協働活動です。仕事も一人では出来ないので仕事で社会貢献するという本来仕事はそういうものであり、自分の収入を上げる、昇進するためにパソコンを習うことも含まれるが広く捉え協働活動だと認識していきたいと思いますが。
副市長	事務局から案を出しておいて私が質問するのも変なのですが、問 17 で先ほどから問題となっている学校と地域の協働ですが、「あなたは、地域にどのような課題があると考えていますか」の選択枝 13 番の回答「学校と地域の協働」という答えで一般の市民の方は分かるかな。地域の協働ということでどんなことをイメージされるのか、例えば「学校の運営への地域住民の参画」なら分かりやすいが「地域と学校との協働」で分かりますかねと。分かればいいのですが。あるいは問 19 で「あなたが参加している地域や社会の課題を解決する活動はどのような活動ですか」で「市民と行政との協働に関わる活動」という言い方でこちらがイメージしていると同じようなものをイメージされるかどうか、このままの表現でいいのか。
委員長	「地域学校協働活動」という文言と、ひとつ上の「市民と行政の協働」が引っ張られ同じ表現になっていると思いますが、確かに、学校と地域の協働といった時にイメージできるかと言えば、現実到现在まで協働活動を丹波市で声高に言ってきたか、ある程度浸透していますか？そのあたりですね。
大西委員	PTA でも PTCA 活動というものがここ 20 数年前くらいから始まっていますが、ほとんどが PTCA に浸透していない。まだ、PTA という考え方です。

	地域による地域の子ども達への子育てという感覚でしょ。
副市長	教育委員会がどう思うかですね。
教育部長	地域は、学校に対して協力しているという認識があります。学校のほうも地域に協力してください。とそれぞれが一方的に関わってきているという形があり、協働というところまで全く行っていない。一方的な思いが学校にも地域にもありますので、それをいかに協働していくのが丹波市では今出来ていないので課題です。
委員長	17 番の選択肢を 1 から順に見ていくと、2 番は青少年の健全育成の推進、3 番は子どもの教育となっています。丹波市の子どもの学校教育について課題があるとの選択肢があるわけです。それを読み進めていくと単に学校の教育に問題があるだけでなく、そこにもう少し地域が関わっていくという課題があることを認識してほしいという選択肢ですよ。ただ学校と地域の協働という言い方がピンとくるかということです。 もっと分かりやすい言葉があれば直すことも出来るし、ずばり学校と地域の協働という言葉でぶつけてみて、まだまだ認識されていないという数値を読み解くという手も無いではないです。いかがでしょうか。
大西委員	問 21 のところに、「学校と地域との協働に関わる活動」という表現になっているがちょっとニュアンスが違うと思うがどうなっているのか
委員長	学校というのがもっと地域に開かれて一緒に活動するといいなという認識があるか。それを課題として認識されているかどうか。活動がある時には参加してみたいという問に 21 はなっている。
大西委員	イメージとしては協働活動ではないか
委員長	それを言い出すと全てが市民と行政との協働活動になる。例えば市民と行政との協働といえ一般の方はピンときますか？
副市長	市民と行政との協働とはかなり言ってきていると思う。特に市民活動等の NPO が出来てきてそこはある程度分かるのかと思う。学校と地域との協働と言ったときに、住民の学校運営への参画であったり、住民そのものが一緒に学校へ入っていくこと。協働はその反対もある。地域への学校の貢献のようなこと。今のところその様なことは意識していない。学校は、地域に対してどんな貢献ができるのか、学校には物的にも人員的にも色々な支援がある。学校そのものが地域の活性化のためにどう貢献をしていくかそれも学校と地域の協働になる。

	先ほどからの生涯学習の観点からはどちらかといえば学校の地域への貢献というより、地域が学校にどう貢献していくかというニュアンスが強いと思いますがどうですか。
委員長	例えば地域のお祭りが運営するにもお年寄りばかりになり大変になってきている。学校と協働すれば、中学生ぐらいになれば力になり、消えゆくようなお祭りが学校と連携して保存された。学校の子ども達が地域に出てくることによって地域に貢献することはある。
副市長	今までどちらかといえば丹波市は、「コミュニティスクール」や「学校運営協議会」という場合は、どちらかといえば地域の人が学校へ入っていくという観点で、学校が地域にでてきて学校が地域にどう貢献するかという観点では話をしていないのでそこまで大きなものをイメージできるかは難しいのではないかな。
酒井委員	「学校と地域との協働」というのと「地域と学校の協働」では少し違ってくると思います。資料6で見直しの方向性は、地域学校協働活動が中心で推進されている。学校が求めているのではなく地域が学校に対して一緒にやっていこうということを推奨されていると思います。ここで謳われているのは地域学校なら、後ろの方も地域学校がいいのではないかと思います。 協働という言葉があげられていますが、一般には馴染みの薄い言葉だと思います。例えば問17番では・子育て支援の充実、・青少年健全育成の推進などはイメージが出来るけれど、市民と行政との協働・地域と学校との協働といわれるとアンケートをしようとすればよく分からないのでスルーされると思う。その下の外国人市民との交流だとイメージが湧く。アンケートの内容を検討するには大事なところだと思う。
山内委員	学校と地域の協働に関わる活動と大変難しく捉えられていると思います。私の場合は難しく考えないで、協働というのは、学校と地域で何かやっている行事や活動ではないか、学校と書いてあるが幼稚園や保育所でもちつき大会があれば地域の年配の方とされるとか広い範囲で特別な行事をしているイベントをしていると捉えなくて、学校と地域で一緒にしている活動と捉えると難しく考える必要がないと思う。
委員長	確かにわからないということでスルーされる場合もあるかもしれない。良くないアンケートの考え方ですが、アンケートによって啓発していくような統計的には良くないがこんな活動があるのかとアンケートを見て知ることもある。
松本委員	今後社会教育の議題がでてくるとはと思いますが、今の丹波市の社会教育の

	現状というものを次回お話していただきたいと思います。この審議会が3～4回の審議で私が前回関わらせていただいた、基本計画審議会では皆さんで審議して作り上げたというイメージがあります。その中で丹波市が市民活動に力を入れてこられたのかなと受け取っていました。今回、後期の審議会に参加するにあたって社会教育と学校教育との連携を議論していくという流れになってきているので、市民活動とこれから議論していく社会教育、学校教育との連携が議論を果たしてこの4回の審議会で納めることができるのかと懸念と不安がある。もし審議する機会が増えるのであれば活発に議論できればと思っています。
細見委員	地域循環型の生涯学習というのは学んだことを地域に生かしていくと表現されていますが、例えば高齢者学級、寿学級に入られて、楽しく生きがいづくり、健康づくりをされ、心身共に健康になっている。実際には学んだことを地域に生かせなくても育んだ元気とかエネルギーを村で環境整備をされたり、役員をされたり違ったボランティア活動をされたりすることも含めて地域循環型と捉えてもいいのか。学んだことを生かすではなくても。
委員長	自分の学習の為だけ学習は別ですよと端折って言いましたが、学習は基本的に自分自身が生きがいとなっていくことがベースとなっているので、地域の人たちが学ぶことによって元気になり、幅広く展開していくことは生涯学習の根幹のところだと思います。
委員長	教育委員会事務局も副市長も宿題といわれたので、今後、教育委員会事務局からもどのような方向性を持っているかということを会の中で説明いただき、共有してどこまで迫っていけるのか議論が展開していくかということになると思います。 予定していた時間になりましたので、次回のことについて事務局から説明をお願いします。
事務局	11. 第2回審議会の開催日程 令和元年7月31日（水） 午後1時30分 氷上住民センター 12. 閉会